



和歌山県

私たちのみはまの海を考える

基にしたモデル的なプログラム	身近な「水」と「生き物」のつながり、干潟の生き物観察から世界をみよう！
作成団体	特定非営利活動法人くすの木自然館、一般社団法人アーバンネイチャーマネジメントサービス
実証協力校等	和歌山県立みはま支援学校、和歌山県立自然博物館

SDGsの要素	 
ESDの要素	   多様性 相互性 連携性
能力／態度	   伝達 協力 参加

● プログラムの概要

学校周辺の豊かな海岸で生物観察と調査を行い、過去の記録と比較して変化の様子を考察する。その際に温暖化の推移や近隣の森林の荒廃、地元漁業の問題を考え、海の生き物の変化や多様性の変化を学ぶとともに、人と自然の関係や自分たちの暮らしとの関わりについて考え、今後の環境変化の予想と個人でできる取組について学び、多くの人に知ってもらふ必要性を実感する。その方法として口頭発表やポスター発表を通じてまとめ、伝えることの大切さと喜びを実感する。

● プログラムの目標

1. お互いに協力し、個性を尊重しあい、ひとつの作業を最後までとむに行う。
2. 海の生き物の多様性と関わり合いと進化について学び、実感するとともに地元の海の豊かさを確認する。
3. 過去と現在の生物の変化を知り、原因を探って問題があれば解決策や対応策を考える。



野外活動の成果報告と専門家(博物館学芸員)によるアドバイス



生物の同定と、生活との関わりについての講義



全校集会でのプレゼンテーション

● 参加者の声

- これまで以上に多くの生物を観察できたこと、サンゴを確認できたことが大きな収穫でした。
- みはまの磯がとても生き物の多い場所だということがわかった。
- 温暖化の影響で毒のある生き物が出てきたりしている。

● プログラムの流れ

1・2時間目	フィールドワークの準備と生き物の探し方
3～5時間目	フィールドワークとその後の解説
6～11時間目	全校集会(口頭発表)と文化祭(ポスター発表)に向けたまとめ
12時間目	全校集会(口頭発表)と文化祭(ポスター発表)